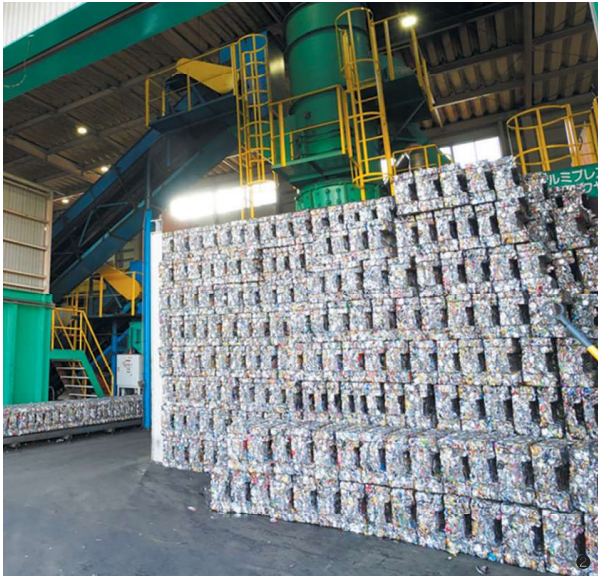


自動販売機事業を通して循環型社会に貢献 株式会社サンポーのリサイクル事業



「お客様の期待にことん応える」をモットーに、1981年に創業した株式会社サンポー。中核は自動販売機オペレーター事業で、設置や商品選定・補充、代金回収、清掃・メンテナンス、空き容器的回収などを総合的に行っている。1995年から空き容器的回収から再生までのリサイクル事業にも力を入れている。事業開始当初は、回収した容器は産業廃棄物処理業者に処理を依頼し、処理をするにも困難な時代だった。そこで創業者が「販売商品の空き容器は、後始末まで責任をもってやる」と自社のリサイクル工場を建設して、環境を整えたという。この取り組みには同じ悩みを抱える同業者も賛同、徐々にサービスの内容は浸透していった。今では、リサイクル工場も2箇所あり、自動販売機から回収した空き容器だけでなく、自治体が管理する資源ごみの回収業務及び処理業務の委託を受けるまでに成長した。

また、空き容器的のリサイクル方法にも変化が生まれている。近年、叫ばれている環境問題への意識の高まりもあり、ボトルttoボトルを推奨



する飲料メーカーが増加。以前はリサイクルしても採算が合わず海外に流れていたペットボトルも、今ではリサイクルしたものを飲料メーカーに戻し再びペットボトルに生まれ変わるという流れができています。このような意識が高まる前から自社で工場を持ちリサイクル事業を行っている同社は現在ボトルttoボトルの取り組みに大きく貢献をしている。

現在の会社を率いる鈴木直仁社長は「美味しく安心、安全な飲料水が、自販機でいつでも安価に購入ができ、さらに使用後の容器はリサイクルされている」という状況は飲料業界の企業努力と、日本の良い文化があつて成り立っている」と語る。最近では、焼き芋「芋禄寿」ブランドで自動販売機の飲料とセットで購入してもらえ商品企画・販売するなど、物価高騰が叫ばれている中でも自動販売機の活性化と飲料業界の魅力を発信し続けるため、新たな取り組みを進めているようだ。



従来

回収したペットボトルは産業廃棄物処理業者が処理、リサイクル。海外で加工され繊維の原料などに使用されていた。

導入後

回収したペットボトルは、リサイクル工場加工。各飲料メーカーに戻し、再びペットボトルとして活用されている。

- ①尾張(犬山市)・三河(岡崎市)の2拠点でリサイクルセンターを運営
- ②缶、びん、ペットボトルを核とした新しい可能性を生むリサイクル
- ③缶、びん、ペットボトルは単なる容器(ゴミ)ではなく、1本1本が大切な資源
- ④焼き芋と自販機の飲料をセットで購入してもらった施策も考案中

株式会社サンポー

かぶしきがいしゃさんぽー

愛知県春日井市出川町4-13-8

0568-51-2700

<https://www.kk-sanpoh.co.jp/company>

株式会社サンポー

検索